

箕面公園昆虫館 <http://www.mino-konchu.jp>
〒562-0002 大阪府箕面市箕面公園1-18
TEL.072-721-7967

vol.15 TAKE FREE

日本の蝶の多様性を 学んでみよう。



箕面公園で昆虫たちと遊ぼう

箕面公園 昆虫館 だより

Minokoen Konchukan

Vol.15

アサギマダラ
(タテハチョウ科)

Parantica sita

渡をするチョウとして有名です。箕面では10月ごろに南に行く途中の個体が飛来し、フジバカマやヒヨドリバナで吸蜜する姿が見られます。

2019年10月28日 箕面市箕面公園 中峰館長撮影

special

【特集】

身近にいる蝶の魅力にふれてみよう

「日本の蝶展」

report

かわいい表情にいやされる

「秋のイモムシ図鑑」

秋の箕面公園を楽しむプログラム

箕面大滝ライトアップ

期間：11月1日(日)～15日(日)
時間：17:00～21:00
秋の夜長に、輝く滝に出会ってみませんか？
※天候などにより中止する場合があります。



まちやまコンサート

期間：11月7日(土)
時間：13:30～17:30
場所：昆虫館前広場 雨天中止
出演：
籠谷紗希&野上朝生、
シャナヒー&アンニコル、
ふたりゴージュ、
イマニシユカ&
シンフォニー宙



※新型コロナウイルス感染症及びその他感染症などの影響により、予定変更または開催中止となる可能性があります。

瀧安寺～昆虫館前 紅葉ライトアップ

期間：11月14日(土)～11月23日(月祝)
時間：17:00～21:00
場所：昆虫館前エリア



箕面公園昆虫館は箕面公園内にあります



自然豊かな箕面公園も一緒に楽しみませんか？



①みのお大滝

公園の入口である一の橋を渡り、楓のトンネルや杉木立の中を溪流に沿って滝道を2kmほど歩くと、「日本の滝百選」に選ばれた高さ33mのみのお大滝(箕面大滝)に至ります。



②野口英世像

世界の医聖といわれている野口英世博士は、大正4年(1915)米国留学から帰国した際、待ちわびていた母を伴って箕面に来遊されました。それにちなみ博士の生前の偉業をたたえ、昭和30年(1955)11月に銅像が建立されました。



ご注意とお願い

- ゴミは各自で持ち帰ってください。
- 公園内は火気厳禁です。焚き火・バーベキューなどはできません。
- 公園内は一般車両・バイクの通行はできません。
- 草花や木を採らないでください。
- サルやイノシシなど野生動物にエサを与えないで下さい。

屋外でも感染予防をしっかりと

マスクを着用する、お互いの距離をあけるなど感染予防対策をしっかりと行っとうえで、箕面公園および箕面公園昆虫館をお楽しみください。



感染防止対策にご協力願います。

●入館者の「人数制限」と「見学時間の制限」をおこないます

※再入館はできません。 ※予約はできません。
詳しくは、箕面公園昆虫館HPでご確認ください。 <http://www.mino-konchu.jp/>

- 中止：「ふれあい体験」など館内イベント
- 館内一部コーナーや設備の利用制限があります
- 入館時、見学時はマスクの着用をお願いします。 ●検温にご協力をお願いします。

◎換気設備常時運転、排煙窓など開放する等の換気をおこないます。 ◎館内の定期的な消毒活動をおこないます。
◎スタッフはマスク着用、距離をとっての接客とさせていただきます。



箕面公園昆虫館の利用案内

URL <http://www.mino-konchu.jp>

所在地 〒562-0002 大阪府箕面市箕面公園1-18 TEL.072-721-7967

開館時間 午前10時00分から午後5時00分(入館は午後4時30分まで)

休館日 火曜日が休館(祝日のときは開館し、翌平日が休館)・年末年始(12/29～1/3)
※令和2年度11月は全日開館

入館料 大人 280円、中学生以下無料、団体(有料入館者30名以上) 1名 200円
※障がい者手帖をお持ちの方、およびその介護者1名 無料

交通機関 阪急宝塚線 石橋阪大前駅で箕面線に乗り換え箕面駅へ、千里中央駅から阪急バスで箕面駅へ

●箕面市立駐車場をご利用ください。(箕面公園には駐車場がありません。)

発行：箕面公園指定管理者 メイプルハーツ企業共同体



取り巻く環境の変化とともに生きる

日本の蝶展

2020年 10/28(※)～2021年 3/29(月)まで

日本に分布するチョウは約240種。そのうち232種の標本を一挙に展示！

日本にも美しく多様なチョウが分布しています。今こそ改めて日本のチョウを取り巻く環境について考えてみませんか？

箕面公園昆虫館
中峰 空 館長

日本のチョウの
多様性を実感しよう

日本には約240種126亜種のチョウが分布しています。このうち今回の企画展では232種の標本を展示しています。このように改めて眺めてみると、日本のチョウはとても多様で豊かなことが実感できるといえます。

近年日本のチョウを取り巻く環境は大きく変化しています。とくにこの30年の間に多くのチョウが激減し、分布域が縮小しています。また逆に以前はあまり見られなかったのに、少しずつ分布が広がっているチョウもいます。このように、幼虫が特定の植物の葉を食べて育つチョウは、自然環境の変化の影響を受けやすいと考えられます。生息地の環境の変化等により減っているチョウは絶滅を回避するために生息地の外で保護し増殖する事業が行われています。これを「生息域外保全」といいます。箕面公園昆虫館ではツシマウラボシシジミとウスイロヒヨウモンモドキの2種のチョウの生息域外保全に取り組んでいます。将来にわたり、チョウだけでなく多様な昆虫、生き物が生息できるためにわたしたちができることを考えるきっかけになつてもらえたらうれしいです。

今は箕面で見られないチョウ

ギフチョウ【絶滅危惧II類】

(アゲハチョウ科)

Luehdorfia japonica

幼虫の食草：カンアオイ類

日本の固有種。箕面では1960年代に絶滅したと考えられています。かつて林床の明るい雑木林が広がっていた北摂地域はギフチョウの多産地でしたが、最近是一部地域で細々と生息しているだけです。

オオウラギンヒヨウモンシ

【絶滅危惧IA類】

(タテハチョウ科)

Fabriciana nerippe

幼虫の食草：スミレ。全国的に激減している草原性のチョウです。元々箕面では少ないチョウだったようですが、1960年代に姿を消しました。

オモテ

ウラ

少ないながらも今も箕面で見られるチョウ

サカハチチョウ

(タテハチョウ科)

Araschnia burejana burejana

幼虫の食草：コアカソ

季節による変異(春型と夏型)で翅の模様が大きく異なります。谷筋のイチゴ類やツギのような白い花を好んで集まります。

春型

夏型

最近箕面で見られるようになったチョウ

イシガケチョウ

(タテハチョウ科)

Cyrestis thyodamas mabella

幼虫の食樹：イヌビワ、イチジク。南方系のチョウで、近年分布域を広げています。渓谷を好むので、滝道沿いでも見かけます。

クロコノマチョウ

(タテハチョウ科)

Melanitis phedima oitensis

幼虫の食樹：ススキ、ジュズダマ

南方系のチョウで分布域が広がっています。昆虫館周辺のススキでもウサギの耳のような突起を持つかわいい幼虫が見られます。

テングチョウ

(タテハチョウ科)

Libythea leptia celtoidea

幼虫の食樹：エノキ

箕面公園でもよく見られるチョウの一つです。触角の内側に天狗の鼻のように伸びた突起(下唇鬚)を持つのが特徴です。

ウラギンシジミ

(シジミチョウ科)

Ussuriana stygiana

幼虫の食樹：アオダモ、マルバアオダモ。日本の固有種。翅の裏の黄金色が特徴的なシジミチョウです。箕面公園は昔から生息地として有名でしたが、全国的に分布は局地的で少ないチョウです。

オモテ

ウラ

セスジズメ

(スズメガ科)

Theretra oldenlandiae

ブドウ科、サトイモ科など複数の種類の植物を食べる。体の横にたくさんの眼状紋と呼ばれる目玉模様が並ぶ。スズメガ科の特徴である尾角を前後に振りながら歩く姿はとても愛らしくファンも多い。

ウラギンシジミ

(シジミチョウ科)

Curetis acuta

クズやフジなどを食べる。第8腹節の背面に1対の突起を持っており、刺激するとムチ状のものを出し威嚇する。

秋のイモムシ図鑑

日本に棲息するチョウの中から、
蝶飼育スタッフのおすすめイモムシをちょっとだけ紹介しま～す。

リンゴドクガ

(ドクガ科)

Calliteara pseudabietis

色々な植物を食べる。刺激すると背面の青い部分を見せて威嚇する。ドクガと呼ばれるのが毒はない。フサフサの毛から時折見せるお顔がとても可愛い。

ヒメジャチホコ

(ジャチホコ科)

Stauroplus basalidis

ハギ類などを食べる。発達した中脚と後脚が特徴的なイモムシ。刺激すると腹端を持ち上げて長い脚を広げ、ジャチホコのポーズをとる。

Column

日本の蝶の現状

各地で減っている日本のチョウ。何が起きているのでしょうか。

まずは知るところから、
始めてみよう。

今、地球ではたくさんの生きものが絶滅の危機に瀕しています。日本には約240種のチョウが生息していますが、そのうち亜種を含めて90種ほどが絶滅危惧種などに指定されています。なぜ今、日本から多くのチョウが減っているのでしょうか。

チョウは種によって幼虫の餌になる植物やくらす場所が様々です。あるチョウがいなくなったり、あるいは逆に増えたりすることは、環境に何らかの変化が生じた結果だと考えられます。ではどのような変化が影響を与えるのでしょうか。それは餌になる植物が減ったからかもしれないし、繁殖行動に適した環境がなくなっただけかもしれない。このようにチョウの生態を詳しく理解することで、初めて絶滅を回避するにはどうすればいいか、その対策を考えることができるのです。

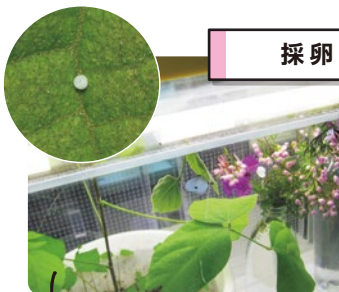
チョウをよく知ることは、きめ細やかな自然環境の多様性に目を向けることに他なりません。まずは知ることから、始めましょう。



(上)ウスイロヒヨウモンモドキ
Melitaea protomedia

かつては中国山地の乾性草原に広く生息していた小型のタテハチョウです。現在、野生個体が見られる場所は現在わずかに数箇所のみとなっています。(写真提供：兵庫ウスイロヒヨウモンモドキを守る会 近藤伸一)

かつてウスイロヒヨウモンモドキが見られた草原



採卵



個別飼育



交配・交尾中



成虫



箕面公園昆虫館では、
兵庫県北部個体群(野生絶滅)の
生息域外保全に取り組んでいます。

現在環境省が主となり、国内希少野生動植物の保全事業が進められています。箕面公園昆虫館は昆虫の生体を専門的に扱える設備や機材、そして技術を有していることから、2017年度の指定管理者への運営移行を機に希少昆虫の生息域外保全事業の受け入れを決定しました。2018年4月から環境省の「ウスイロヒヨウモンモドキ生息域外保全事業を、同年7月から同じく環境省の「ツシマウラボシシジミ保護増殖事業」を始めた。